



# JHFレポート

# 12

(社)日本ハンググライディング連盟 発行

1999年12月号

## 警告

### ●パラグライダー死亡事故発生。ハーネスのベルト締め忘れに注意!

10月24日(日)熊本県でパラグライダーの死亡事故が発生しました。原因は、ハーネスのレッグベルト(フットベルト)締め忘れ。亡くなったパイロットは、福岡県在住の52歳の男性で、教員技能証を持つベテラン。ベルトを締め忘れていたことに気がつかぬまま飛行し、ターンに入った時に体がハーネスからずり落ちたようです。対地高度約200メートルから落下、内臓破裂ほかにより即死でした。

レッグベルト締め忘れによる死亡事故は、昨年も長野県で発生しており、ヨーロッパのアルプス周辺では10件以上報告されています。同様の事故を二度と起こさないために、ハーネス等のプレフライトチェックを確実に行ってください。また、飛ぶ本人だけでなく、第三者もチェックする\*習慣をつけてください。どんなにテイクオフを急いでいる時でも、チェックをおざなりにしてはなりません。

今年の国内の死亡事故は、これで8件目です。パラフライヤーもハングフライヤーも

安全を第一にフライトしてください!

\*プレフライトチェックは、フライヤーが各自行っていますが、自分で点検するだけでなく、第三者とともに点検する「クロスチェック」も習慣にすることによって、チェックのうっかりミスを防ぎます。

クロスチェックとは、飛ぶ本人が手順表を読み上げ、他のフライヤーがそれに従って点検を行う方法です。確実に点検をするために手順表は暗記してはならず、必ず読み上げられた順にチェックしなければなりません。ライザーがカラビナに正しくセットされ、確実にロックされているか。レッグベルトは確実にセットされ調節されているか。チェストベルトは確実にセットされ調節されているか。ヘルメット・ゴーグルは正しく装着されているか。これらを一一つチェックした後、さらにテイクオフ直前に、本人がファイナルチェックを行い、安全を確保します。

JHFでは、レッグベルト締め忘れを防止するためのビデオ(DHV制作の「Check before Flight」英語版 対訳付き)を正会員(都道府県連盟)に配付するほか、希望者に有料配布します。申し込みはJHF事務局まで、以下の方法で。

1.郵便局または銀行でビデオ代金1,000円(送料こみ 大量の場合は割引もあり)をJHFに振り込む。

郵便振替:00180-8-650201

銀行振込:さくら銀行新橋支店

普通 3517333

口座名:日本ハンググライディング連盟  
(郵便局・銀行とも)

2.その振込用紙(送金票)をA4サイズの紙に貼り付ける。

3.同じ紙に「DHVビデオ希望」という言葉と、注文する本数、氏名、送付先、電話番号を記入する。

4.JHF事務局DHVビデオ係にFAX送信する。FAX.03-3597-0245(12月14日以降は03-5840-8312)

## 2000年からのJHF「フライヤー宣言」決まる

2000年まで1ヶ月。JHFは新しい年とともに新しい時代を迎えようとしています。日本航空協会からJHFへの「航空スポーツ登録制度(フライヤー登録)移管の準備はほとんど終わり、さまざまな作業の細かい点を見直しているところです。事務局の移転先も決まり、フライヤー会員証や新スタイル技能証の発行のための機器はウォーミングアップ中。記念すべき年を滑らかに始められるよう、関係者一同、ラストスパートに入りました。

JHFフライヤー会員証には下記の「フライヤー宣言」が印刷されています。会員証が届いたら、宣言文の下に署名をして、飛びに行く時はいつも携帯してください。

JHFフライヤー宣言

- 1.自分の意志と責任でフライトします。
- 2.自己の健康管理を行い、健全なフライト

をします。

3.社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。

4.自然を大切にします。

1から4まで、フライヤーとして当たり前のこと。宣言に背かないフライトを心がけ、安全に大空を楽しんでください。

さて、登録更新の場合は会費をコンビニエンスストアから振込めると、11月号でお知らせしましたが、1999年中に更新通知が届く人は郵便局からしか振込めません。ご注意ください。また、年内に登録が期限切れになる場合、航空協会から更新通知と振込用紙が届きますが、この用紙をそのまま使ってJHFに会員登録の申し込みができません。年内に期限が切れるけれど、来年になってからJHFに登録したいという方は、保険も期限切れなのでご注意ください!

## JHF事務局の移転先が決まりました

前号でもお知らせしたように、来年1月のフライヤー会員登録開始を機に、JHF事務局が移転することになり、10月14日の理事会で移転先が決まりました。

新住所 〒112-0003 東京都文京区春日2-24-11 春日Shimaビル8階 TEL.03-5840-8311

FAX.03-5840-8312

最寄り駅は、営団地下鉄丸の内線・南北線の後樂園駅。駅から徒歩10分で、春日通りに面したビルです。目の前に都営バスの伝通院停留所があります。引越は12月14日の予定ですので、ご注意ください。

## 空のかお

その27



中久木伊佐男(なかきいさお)さん「緊張感と難しい状況を克服していく快感が最高」という中久木さん。4年ほど前、ドライブの車窓からみていたパラを、「死ぬまでに1度は飛びたい」と始め、今ではXC証を持つまでになった。「富士山から日光連山までが、一望できた時には、最高に感動しました」と話す彼の目標は、まだまだ高く、遠くにあるようだ。

## 委員会の動き

### PG競技委員会 委員長 岡 良樹

JHFレポート前号の本欄に、日本選手権開催地の立候補の条件として、ジャパンリーグの開催実績が必要であると書いてしまいましたが、実際は、公認大会の開催実績が必要であり、また、日本選手権と同規模の大会を開催して実績を積むことが必要と、ルールブックに記されています。ここに訂正し、お詫びします。

来年は2000年。節目の年でもあり、日本選手権は必ず記憶に残る大会となることでしょう。ぜひ立候補の手をあげていただきたいと思います。

### HG競技委員会 委員長 大澤 豊

10/22～24に開催された「第2回板敷オープン」の結果をホームページに掲載しています。

12月から2000年のポイントシステムの登録が始まります。お早めに登録を済ませてください。

また、来年(2000年)4月30日～5月5日に岩手県遠野エリアで開催予定の日本選手

権はFAIカテゴリー2にて開催の予定です。参加を考えている選手はFAIスポーツイングリセンスの取得をされるよう準備をしておいてください。

尚、事務局にメールをくだされば競技委員会インフォメーションをお送りします。  
HG競技委員会事務局  
FAX.0299-44-1346  
E-mail:haku@tomato.saino.ne.jp  
http://tomato.saino.ne.jp/haku/JHF-HG.html

### 教習検定委員会 委員長 島野 広幸

クロスチェックという言葉をご存知でしょうか。これは、プレフライトチェックをフライヤー本人だけでなく第三者と一緒に相互点検のこと。クロスベルトのチェックのことではありません。ハーネスベルトのかけ忘れなど、基本的なミスをなくするため、チェックシートを見ながら、第三者がクロスチェックを行います。当委員会では、これを技能証課程に導入することにして、準備を進めているところです。

クロスチェックは、スカイダイビングで

は日常的に行われている、とても素晴らしい習慣です。皆さんのエリアやスクールでもぜひこの習慣を取り入れてください。

### 制度委員会 委員長 小林 秀彰

現在、最優先で行っている活動に、JHF規程集の作成があります。

JHF規程集は、2つに分けられます。第1章には組織、定款、諸規定、諸規約などJHF運営に関わるものをすべて掲載します。

第2章にはハング、パラのすべての技能証規程をわかりやすく整理したものを掲載する予定です。

この規程集はバインダー方式での綴じ込みを行い、規程の改定などがあれば差し替えができるように作りたいと考えています。また、すべての規程集の内容を電子ファイル化し、将来の改定などの作業や、インターネットへの掲載の省力化を図る予定です。理事会の承認があれば、2000年6月総会までに電子ファイル(ワードかテキスト)がバインダーで各正会員へ配布したいと考えて、現在作業中です。

## '99 JHFパラグライダーセイフティセミナー報告

10月19日～21日の3日間、京都府舞鶴でパラグライダーの教員に対しての、セイフティセミナーを開催しました。スカイスポーツが「安全で楽しいスポーツ」であるためには、実際にスクール生の教育に携わっているインストラクターへの指導が重要で、また、年々変わってきているパラグライダーの進化に伴うテクニックについての知識や理解、指導方法についての研究が必要です。一般の人々がスカイスポーツを始める受け皿として果たすスクールの役割と対応は非常に重要です。そこで、今回のセミナーの開催となったのです。舞鶴の神崎フライトエリア同好会の皆様と地元神崎地区の方々には深いご理解とご協力をいただき、無事終了することができました。以下、セミナーの様子を報告します。

水上におけるマヌーパートレーニングが主体ということで、北は北海道から南は九州・鹿児島からもインストラクターの参加

があり、3日間の好天にも恵まれ実りあるセミナーを開催することができました。

講師には、メーカーのテストパイロットである扇澤郁氏をはじめ、小野寺久憲氏、半谷貞夫氏、曾我部真人氏の4人を配し、万全の態勢です。水上でのトレーニングということで船を2艘配置し、万が一着水したときの救助態勢も整えた上でのセミナーですが、あくまでも水上に落ちることが目的ではなく、いかにキャノピーの挙動を体で理解し、また、理論としても理解することに、インストラクターが実際に指導することが可能になるからです。

初日、集まった25名にはこれから行うトレーニングの仕方、操縦方法、その意味をレクチャーし、いざテイクオフへ移動。一番初めに講師である扇澤氏が模範フライトを行ってから、それぞれがこの日の課題をこなす。海上の船の上からそれぞれのフラ

イト位置を曾我部氏が指示し、扇澤氏が的確な操作アドバイスを事細かに無線を通じて行う。また、ビデオをセットし、一人一人のフライトを全て記録。結局初日は一人3回のフライトができた。

夕食後は、昼のフライトのビデオを見ての講義が7時から9時過ぎまで。

2日目は午前中小野寺氏の講義から始め、機体の挙動についての理論を勉強。午後よりフライトトレーニングに移り、この日は一人1本。しかし、条件が良く、1回のフライトで高度を落とすことなく何回もトライができた。この日の夜も7時から講義。

3日目、この日も非常に穏やかで、今まででのトレーニングで苦手だった科目の復習と、希望者にはスパイラルダイブからのレスキューパラシュートオープンを行い、午後5時、無事セミナーは終了した。

今回は、コラップス、ストール、スピン、スパイラルダイブなどのアクシデントに対する操作要領と回復動作や回復させるための指導方法、講義の方法などについて学びました。今までにない実践的なトレーニングと翼の挙動の理解ができたということで、参加者からはこれからもぜひこのセミナーの開催を要望するという結果をいただきました。

常に進化していくグライダーに対する理解を深め、より安全で楽しいスカイスポーツを目指していきたいと思います。

最後にこの場を借りて、今回のセミナー開催への神崎フライト同好会の皆様の多大なるご理解、ご協力と神崎地区の住民の皆様のご協力に改めてお礼申し上げます。

普及推進室担当理事 田中美由喜



セミナー参加者たち。充実した3日間だった。

## 県連ニュース

### 北海道ハンググライディング連盟

旭川市にあるカムイスキーリンクスにおいて、9月はF1としてパラの大会、10月にはハングの大会を連盟主催で行いました。パラの大会は天候不良で不成立でしたが、扇沢、長島、半谷氏が応援に来てくださり、有名人に飢えている道内フライヤーを喜ばせました。ハングの大会は幸い両日とも飛べたのですが、前日の雨の影響で初日は不成立。最終日は強いアゲンストのなか27kmのタスクを組んだもののノーゴールに終わり、飛行距離で順位をつけました。初日に唯一人ミニマム距離に達し、最終日もゴール間際まで距離を伸ばした、連盟HG競技委員会委員長の二本柳晃氏が貫禄の1位。2位に山本悟志、3位に則藤悦基、4位に難波弘、5位に木村政樹、6位に小林栄一各選手が入りました。

カムイスキーリンクスは、連盟が大会の時だけ営林署等から使用許可をいただいて利用しているエリアです。大会前後はフリーフライトもOKですので、本州の方、観光を兼ねて遊びに来てください。大会運営のスタッフも募集しています。ご連絡ください。最後に、今回も快く運営の手伝いをしてくださった各クラブの方々にご心よりお礼申し上げます。問い合わせは、当連盟事務局 TEL.011-582-0790、FAX.011-582-1677 (長谷川栄次) または普及委員の吉野正規 TEL.01582-3-7756 (FAX 兼用) までどうぞ。 [吉野正規]



秋の北海道でフライトも紅葉も食も楽しもう!

### 青森県ハンググライディング連盟

冬でも飛べる青森県! スキー・スノボータを持っておいでください!

10月16日、青森の山々には初雪がありました。このレポートを皆さんがお読みになる頃には、青森の山々は真っ白でしょう。そしてスキー場では初滑りのニュースが流れている頃と思います。スキーシーズンが始まっても、パラグライダーで飛べるスキー場エリアが青森にはあります。冬のスポーツとスカイスポーツを楽しみに、ぜひ青森県においでください。お出掛けの際は、エリア管理者と事前に連絡を取り、エリアルール等をよく確認してから、入山してください。

冬でも飛べる青森県連公認エリア/エリア管理者 モヤヒルズ(青森市)/TEL.0177-65-1345(杉山) 大鱈温泉スキー場(大鱈町)/TEL.0172-75-5510(工藤) 田

子スキー場(田子町)/TEL.0179-22-3523(高比座)

9月23日~26日に、青森県岩木山と秋田県十の瀬で開催されたラリー形式のハンググライディング大会は、台風18号の通過で不成立に終わりました。この大会は、二つのエリアで競技する珍しい大会で、一度の遠征で二度楽しめるといったところ。2日目の岩木山は快晴で全員フライトできましたが、誰もミニマムをクリアできず、残念ながらノーコンテスト。他の3日間は強風で飛ばせませんでした。山ほどの賞品はくじ引きで全員に配分。選手はフライトより真剣な眼差しでくじを引いていました。賞金は来年への持ち越し。また来年もぜひおいでください。 [古川正司]

### 宮城県ハンググライディング連盟

10月10日・11日の2日間、パラグライダー宮城県ポイント対象大会「オニコウベカップ'99」が、宮城県玉造郡鳴子町リゾートパークオニコウベで開催されました。この大会は、宮城県で計4回行われるうちのひとつで、その総合で1年間のチャンピオンを決めるシステムになっています。

10日は実行委員のサンライフPGクラブ員の努力の甲斐あって、朝から抜けるような青空が広がり、前日の雨空からは想像もつかぬ絶好のコンディション。58名の参加者全員がフライトでき、夜のパーティはオニコウベらしい魅力いっぱいの料理で大いに盛り上がりました。2日目もナイスコンディションが続き、次々とテイクオフしていく選手たちの後ろ姿が、やけに大きく感じられた次第です。

リゾートパークオニコウベで、毎年この時期に行われている「小さな国の秋穫祭」目当ての大勢のギャラリーの歓声と大きな拍手に送られ、スタッフはじめ参加選手全員、大満足の2日間でした。結果は次のとおりです。

#### オープンクラス

1位	中山 敬一	1675点	SPC
2位	菅原 美紀	1518点	SPC
3位	吉田 晃	1445点	ロックオンスカイ
4位	久保 尚子	1399点	ロックオンスカイ
5位	富樫 信介	1306点	ロックオンスカイ

#### B・NPクラス

1位	江刺ひろ子	1825点	SOSC
2位	秋山実紀子	1605点	SOSC
3位	樽林 慎二	1265点	SOSC

実行委員より一言「来年は今年よりもっと楽しい、もっと魅力ある企画を立てたいと思っています。皆さんのエントリーをお待ちしています」 [川越敏明]

山口県ハング・パラグライディング連盟復活! HG中国選手権

10月9日・10日の2日間、岡山県の大佐山で5年ぶりにハンググライディング中国選手権が開催されました。参加者は41名。

ダミーを含めると50数機のハンググライダーがテイクオフ斜面に並ぶ光景を見て、地元フライヤーは「ここでもこんなにグライダーが並ぶのを見るのは久しぶりだ」と、感慨深げ。以前は、日本選手権の予選を兼ね大佐山で毎年行われていた中国選手権でしたが、今回は、地元パイロットを除けば、大佐山でのフライトは久しぶり、初めてという人がほとんど。最近、広島以外のエリアではとんと顔を見なくなった高見さんもダミーを買って出、条件が渋かったせいか、中国選手権という緊張感はなく、終始和やかな雰囲気の中で競技は終了。パイロットクラス1位に、兵庫県山寺崇仁選手、2位は広島県の近藤俊博選手、3位は該当者なし。C級クラス1~3位も該当者なしという結果でした。

大佐山はスケールの大きなフライトができることから、ハンググライディング草創期より日本選手権をはじめ数多くの大会が開かれてきた場所でもあり、フライト技術の向上、競技フライヤーの育成等のため、毎年大佐山で中国選手権を開催することを決定。2000年、そして来世紀も、「中国地方から第二の今嶋が出現!」にご期待を。

[江本俊信]

### 鹿児島県ハング・パラグライディング連盟

10月15日~17日、フェスタ鹿児島(鉄道記念祭)に鹿児島県連盟も参加しました。鹿児島島の陸の玄関口である西鹿児島駅前広場でフリーマーケットやイベントが行われ、県連としてハンググライダーを展示し、県内で活動している団体やクラブ、スクール等を紹介するポスターやパンフレットを掲示。また、会員・クラブより借用した写真の掲示を行いました。身近なスポーツとはいえないハングやパラについて、少しでも理解してもらえたらいいなと思ったことでした。 [黒木悦子]



西鹿児島駅前にはンググライダーを展示した。

事務局からお願い

技能証申請料や教本代、各種参加費など、JHFにはいろいろなお金がかかります。送金後には、必要書類と一緒に「送金控え(写)」を必ず送ってください。書類だけでは入金確認をするのにたいへん時間がかかってしまいますので、ご協力ください。



安定した海風のなか、熱戦が展開された。

今年で3回目を迎える補助動力付パラグライディング日本選手権は、千葉県富津市富津海浜公園エリアにおいて、10月23日・24日の2日間にわたって開催し、合計4本のタスクをこなし大会は成立した。結果は、ディフェンディングチャンピオンの千葉県・萩原選手が第2回大会に続き堂々の2連覇を達成。さらに地の利を活かして千葉県勢が上位独占を果たした。

今回3回目にして初めて海風の中での大会となったが、内陸風をホームエリアとして海風に慣れていない選手にとっては、少し勝手が違った面もあるかも知れない。海風は内陸風と違い、風速の割には風質がソフトで、バンピーな流れが無い代りに絶え間なく海側から強めの一定風を受ける。フライトは全て、山飛びのリッジのように偏流飛行が基本となり、無風フライトを最良とするフライヤーには邪魔な要素かも知れない。しかし慣れればこんなにラクチンな飛びはなく、とても山飛びでは味わえない素直な風で、安全性も極めて高い。しかし2日目、その風も瞬間10mを越える強風となり、半日ウェィティングを余儀なくされたが、午後に入り7mまで落ちて最終日も1本成立させることができた。

競技内容は過去2回とほぼ同様、全てのタスクにエンジンカット後の競技が加わった複合タスクだ。

タスク1:サーキットタイム&ターゲット  
テイクオフすると同時にタイム計測を開始し複数パイロン間を2周してエアゴールする周回スピード競技が前半戦で、そこから、設定されたライン上でエンジンをカットしてターゲットを狙う着陸精度競技が後半戦だ。

タスク2:サーキットタイム&ダーツ&L/D  
エンジンカットまでの前半戦はタスク1と同じで周回方向を逆周りに設定しただけだ。エンジンカット後は、ターゲットへ今度はダーツを投げ込み、そのままターゲットを離れてどこまでL/Dを延ばせるかという競技内容だ。

タスク3:移動スピード&デューレーション  
セットタイム

# 萩原光選手 2 連覇 !!

## 第3回補助動力付パラグライディング日本選手権 報告

星野 納

安全性を考慮して3つのグループに分け空中一斉スタート後、パイロンを周回して空中ゴールする、見ていて楽しい単純競技が前半戦だ。空中ゴールの直前ですでにエンジンはカットして、そのままデューレーションソアリングに入る。セットタイムは3分で今回は風を考慮してコラップス禁止とした。しかも3分以上は得点0としたため、ほとんどの選手が低めの高度からソアリングを開始して、3分以上の失格者はわずか2名だった。

以上の3タスクが初日の競技で、この補助動力選手権では、全タスクにおいてエンジンカット競技を含む複合競技で競われるため、その組み合わせは臨機応変にバラエティーに富んでいる。しかし前述のように2日目は風が強まったため、安全性の高いタスク1を、さらに距離を短くしてそのまま採用した。それが最終日のタスク4だ。

今回は大都市の近郊レジャースポットで開催できたことにより、大会の質を一步前進できた。さらに来年は富山県での開催を予定している。今大会にも陸路9時間をかけて4名の選手が富山から駆けつけてくれた。宿舎では、次回開催に向けてのさまざまな意見を交換し、富山県の特徴ある日本選手権が開催できることを確信した。富山県開催は年内に確定する。

今回の大会も一人の負傷者も事故もなく無事に終了できたのも、千葉県連盟の熱意ある活動の成果である。ボランティア参加していただいた県連役員およびフライヤーの皆さまにあらためて謝意を表したい。

また、この大会を開催するにあたり、並々ならぬご尽力を賜った富津市と富津市観光協会に、心からお礼申し上げる所存である。

(JHF 補助動力委員会担当理事)

### 日本選手権ベスト10 (総合)

1位	萩原 光	千葉県	12400点
2位	斉藤 隆男	千葉県	11300点
3位	村上 義彦	千葉県	10900点
4位	鈴木 敏雄	千葉県	10000点
5位	仲間 聡成	千葉県	9900点
6位	関口 伸夫	東京都	9100点
7位	塚部 省一	栃木県	8800点
8位	山田 修平	千葉県	8500点
9位	川上 典彦	千葉県	8500点
10位	佐藤 良雄	宮城県	8000点

### 女子部門ベスト4

1位	内藤 友美	千葉県	6400点
2位	仰木 史代	千葉県	5400点
3位	桜井 美穂	栃木県	5200点
4位	岩山美由紀	千葉県	1100点



左から総合1~6位の選手たち。



女子のトップ3。左から2位、1位、3位。



合計4本のタスクを競った選手たち。来年もさらに楽しい競技を期待したい。



# Sky Sports Kurasiki

## スカイスポーツ倉敷

全国の鳥人の皆さんはじめまして、岡山県の倉敷市をご存じですか。先ずその辺りから紹介させていただきます。倉敷市は岡山県の中央部の南部に位置し、四国との連絡橋『瀬戸大橋』の本州側の玄関口を擁しています。岡山県のPRとなりますが、天候は温暖で、果物の白桃、そして伝説では桃から生まれた桃太郎、伝記では二刀流宮本武蔵、観光では日本三大名園の一つ後楽園等があります。

私たちSSKのクラブ結成は、倉敷市在住の飛びキチ12名からの始まりです。その母体となるスクールはSET大佐山。現在は改名して『NC大佐』になっています(校長:関口泰生氏)。ホームエリアはもちろん大佐山です。スクールで技術を磨き卒業された人たちの加入もあり、現在では46名になり、岡山県ではアマチュア組織では最大のクラブとなりました。これもスクールの知名度の高さ、町全体の取り組み、風の町としての町おこし等、一丸となって取り組まれている努力の結果と思います。鳥のように飛んでみたい人たちが多く集まり、その中からSSKが、誕生しました。大佐を取り巻く他のクラブの人達と協力しあって、いろいろなイベントをやって楽しんでいます。

今年も第4回目の夏の大会を大空山で開催しました。今年初めての試みで県下各スクールからの参加をお願いしたところ、大勢の参加者があり、盛り上がりのある大会になりました。これから益々発展して行く

でしょう。大会名は『大空山大会』。標高1100mの山頂からのテイクオフ、そして山全体が牧場、ロケーションは抜群です。このエリアは岡山県の北部に位置し、テイクオフからランディングまで直線飛行しても着地まで10分を要します。牛糞を避けてのランディングは、糞テクニックを必要とします。風向きは南～西。フライトの確率が高いのがよいですね。大会はもちろん、特に大会前夜祭は楽しいね～の一言。キャンプ場の一角の建物を借りてバーベキュー等、参加者で協力しながら準備することが、仲間との触れ合いを一層高めています。

SSKのメンバーは現在は岡山県全域、鳥取県、広島県、大阪方面と幅広く、いろんな職業を持つ心暖かい楽しい人達の集まりです。年間行事として7月未ごろ大空山大会を行っています。次に11月初旬、第2回PG仮装大会。この大会はフライト技術よりも奇抜さ、仮装のテーマ性、アイデアに重点

をおきます。大会当日まで参加者は自分の出し物を秘密にします。これは楽しくてお腹がよじれるくらい笑います。第1回大会(昨年)は大成功でした。テレビ放映、そして新聞の第1面にカラー版で掲



大空山大会の参加者たち。楽しい大会だった。

載されました。これはクラブとして誇りに思います。今年も参加者は準備にかかっていることでしょう。

これから、年中で一番風の安定するよい時期になります。各スクール、エリア管理者の皆さん、SSKはNP証、P証の会員の集まりではありますが、今後ともよろしくお願ひします。

最後に、第4回SSK大空山パラグライダー大会の報告をします。

開催日は9月5日。強風と霧のため午前中待機し、午後になって競技開始。強いサイド風のため、スタートに苦勞しました。参加人数は38名でした。

1位に河原(大佐)、2位に藤本(SSK)、3位に岡(大佐)、4位に守屋(SSK)、5位に矢野(福山)、6位に浜子(SSK)各選手。大会委員長は、SSK会長の守屋晃三でした。

田中 暢雄 記

### ハロ-

### パラグライディング (その8)

## パラ始めるならやっぱり春?

あちこちから雪だよりが届くようになり、すっかり冬です。あんなに暑かった夏の日々が嘘のようです。四季折々の趣があって、やっぱり日本はいい国ですね。

「パラグライディングを始めるのはどの季節がいいのですか」という質問を時々聞きます。果たしていつが始めどきなのでしょう。

これからいよいよ本格的な冬です。ご承知のように冬は北風や西風が吹きます。北向きのエリアには好都合です。では南向きのエリアはだめか、という実はそうではありません。南側の斜面には日がよく当たります。この日射によって暖められた地表付近の空気が対流を起こします。そのため北風があまり強くない日には、南風が吹くことも少なくありません。こんな日は結構ぼかぼかしてエリアにいても気持ちがいい。これから始めるのもいいでしょう。

春は陽気も良くなり、風は南に。ちょっと風が強い日もありますが、新しいことを

始めるにはもってこいの季節。おすすめしなくても、春に入門しようとする人は多いはず。春に始めるのもいいねえ。

夏は暑い。けれども風は良い。もちろん南風。梅雨時はどうでしょう? 確かに雨はだめですが、梅雨の合間の曇の日などは、風も穏やかで初級者の練習にはもってこいですよ。暑さになんか負けないで、夏から始めるのはいかがでしょうか。

スポーツの秋。さわやかな風の中、真っ青な空を飛ぶのにはもってこいの季節です。……と言うわけで、パラグライディングを始めるのは、どの季節でもいいのです。ただし、エリアによる条件の違いはあります。「冬もいい」と書きましたが、雪が降ると練習できなくなるエリアもあり、冬期間のスクールは別の場所で行うこともあります。冬飛べないのは残念ですが、反対に夏は涼しくて、快適に練習できることでしょう。

思い立ったらまずスクールに問い合わせ

てみてください。そしてインストラクターと相談の上、あなたにとって最適な入門日を決めてくださいな。



# 理 事 会 ダ イ ジ ェ ス ト

## 10月14日理事会

1999年10月14日(木) 13時30分～17時  
東京都港区立生涯学習センター 202 学習室  
出席：川添喜郎・小林朋子・朝日和博・関谷暢人・横尾和彦・岩間雅彦・田中美由喜・松田保子・松永文也各理事 欠席：星野納・渡邊敏久各理事、坂本三津也・宮川雅博各監事 議長：松田保子

**フライヤー会員のデータ移管について**  
小林より報告。日本航空協会側の都合により、登録フライヤーのデータを渡されるのが早くても年末になった。このため、来年1～3月に登録更新時期を迎えるフライヤーへの通知は、JHFで作成することができなくなった。予定を変更し、更新通知をJHFが用意し、航空協会が住所・氏名を印字し、発送はJHFが行うことになった。この3ヶ月間の更新分については、予定を変更したため、コンビニエンスストアから会費を払い込むことができなくなった。

**JHFフライヤー宣言制定について審議**  
川添より提出された制定案を検討、修正してこれを承認した。宣言文(P1参照)はフライヤー会員証に明記し、会員が署名す

ることにより「宣言した」とみなす。

**JHF 会費会費規程改定について審議**  
関谷より改定案が提出され、2000年からのフライヤー会員登録団体受付(代行)実施にあたり、JHFが認めた団体(スクール等)は会費の納入代行ができる旨、会費会費規程に追加することを、賛成8で可決。規程文は宮川監事と相談のうえ決める。またフライヤー会員会費団体受付規程案については、継続審議とする。

**フライヤー登録制度移管の覚書について**  
川添より、日本航空協会とJHFとで交した「ハング・パラグライダーに関する航空スポーツ登録制度の移管に関する覚書」が提出され、賛成8でこの内容を承認。

**事務局移転先について審議**  
横尾より、JHF事務局を文京区春日に移転する件を諮った文書理事会の結果(賛成9、反対1、棄権1)が発表され、理事会において正式に承認。賛成8。新住所は〒112-0003 東京都文京区春日2-24-11 春日 Shimaビル8階 TEL.03-5840-8311 FAX.03-5840-8312 移転は12月14日の予定。

**賛助会員の入会について審議**

日本印刷株式会社より、JHF賛助会員の入会申し込みがあり、賛成8で承認。

**新事務局の電話回線について**  
新事務局の移転にあたり、電話回線をISDN3契約とする案が出されたが、会長・副会長・事務局長に決定を一任することにした。

**学生連盟事務局設置について審議**  
小林より、学生フライヤー連盟の事務局をJHF事務局内に設置する案が出され、賛成8でこれを可決。若い世代のフライヤーを育てるために、学生連盟を支援することを、あらためて確認した。

**JHF業務の委託について**  
横尾より、今年度の業務委託表が提出され、説明があった。

**2000年度事業計画案について**  
小林より、JHF各部門の来年度事業案を記入する用紙が配布された。各理事はこれを10月中に事務局に提出する。

\*

これは理事会で話し合われたこと、決められたことをまとめたもの。議事録が必要なのは、正会員(都道府県連盟)まで。

## 日本ハンググライディング安全性委員会(JHSC)議事録

日時：1999年9月16日(木)13時30分～17時  
場所：東京都港区立女性センターC学習室

出席者：[委員] 斎藤紀、鈴木康之、岡良樹、泉秀樹、幸路尚文 委任状 阿部郁重、下山進、小宮國男

[機体登録申請者] ファルホークインターナショナル有限会社、株式会社スポーツオーパカイト、有限会社アエロタクトコーポレーション、ソルパラグライダー

**型式登録審査**  
**パラグライダー新規登録**  
**プロトタイプ**  
・APCO式TIGRA S型プロトタイプ 合格：XP-014)  
・Gin Gliders式Bonanza S型プロトタイプ (合格：XP-015)

・Gin Gliders式Boomerang S型プロトタイプ (合格：XP-016)  
・Gin Gliders式Boomerang M型プロトタイプ (合格：XP-017)  
・Gin Gliders式Boomerang L型プロトタイプ (合格：XP-018)  
・NOVA式X-77 20型プロトタイプ(合格：XP-019)  
・NOVA式X-78 21型プロトタイプ(合格：XP-020)  
・NOVA式X-78 23型プロトタイプ(合格：XP-021)  
・NOVA式X-78 25型プロトタイプ(合格：XP-022)  
・DAE KYO式EDEL SECTOR TX#M (COMP)型プロトタイプ(合格：XP-023)  
・ウインドテック式クロノスコンベ24型プロ

トタイプ(合格：XP-024)  
・ウインドテック式クロノスコンベ26型プロトタイプ(合格：XP-025)  
・ウインドテック式クロノスコンベ28型プロトタイプ(合格：XP-026)  
市販型  
・ウインドテック式クォーク23型(合格：PI-734)  
・ウインドテック式クォーク25型(合格：PI-735)  
パラグライダー仕様拡張申請  
・DAE KYO式EDEL PRIME型 (PI-722)承認  
PGハーネスの着水試験報告  
9月15日に行われた、パラグライダー用ハーネスの着水試験について、幸路委員から報告書が提出された。

## 検定会開催予定(1999年10月25日現在)

開催日	時間	開催地	会場	PGP	PGNP	HGP	XC	補助	PGT	HGT	主催者	電話番号
12/4(土)	18:00～22:00	広島県広島市安佐北区	井原会館	10	10						広島県連盟	082-231-2023
12/5(日)	15:30～16:30	滋賀県坂田郡伊吹町	ブルースカイ	40	40		10		20		滋賀県連盟	077-574-0501
12/5(日)	18:00～22:00	広島県広島市安佐北区	井原会館				10				広島県連盟	082-231-2023
12/12(日)	18:00～22:00	広島県広島市安佐北区	井原会館						10		広島県連盟	082-231-2023
12/12(日)	13:00～14:30	岐阜県恵那郡付知町	FIELD-KIDS						20		FIELD-KIDS PGS	0562-83-3659
12/26(日)	9:00～12:00	熊本県阿蘇郡阿蘇町	阿蘇ネイチャーランド	10	10		10				阿蘇ネイチャーランド	0967-32-4196
12/26(日)	18:00～20:00	神奈川県横浜市神奈川区	県民センター	15	15	15	15	1	20	10	神奈川県連盟	0460-3-5391
1/23(日)	9:00～12:00	熊本県阿蘇郡阿蘇町	阿蘇ネイチャーランド	10	10		10				阿蘇ネイチャーランド	0967-32-4196
2/27(日)	18:00～20:00	神奈川県横浜市神奈川区	県民センター	15	15	15	15	1	20	10	神奈川県連盟	0460-3-5391
2/27(日)	9:00～12:00	熊本県阿蘇郡阿蘇町	阿蘇ネイチャーランド	10	10		10				阿蘇ネイチャーランド	0967-32-4196
3/26(日)	9:00～12:00	熊本県阿蘇郡阿蘇町	阿蘇ネイチャーランド	10	10		10				阿蘇ネイチャーランド	0967-32-4196



## 理事からひとこと

会長 川添 喜郎

このひと月も連盟は活発に活動。JHF 移転先を30近い物件から絞りこみ、10月理事会で文京区春日への移転が承認されました。またフライヤー登録移管に関する諸案件が承認されたほか、学生連盟を新事務局で積極的に支援することに。10月早々、フライヤー会員証のデザインを決定。教習検定委員会は教員実技検定を実施。19日～21日、普及推進室はPGマヌーバセーフティセミナーを実施。好評で、安全対策普及に確かな一歩となりました。19日は文部省で定款変更についてご指導いただきました。22日、日本航空協会と「フライヤー登録移管に関する覚書」を交換。これで移管に関する最大の手続きは完了しました。

補助動力付PG日本選手権は、無事終了。富津市松本観光課長、小坂観光協会長、馬場商工会局長さんをはじめ、千葉県連、補助動力委員会の皆さん、星野理事、本当にご苦労様でした。

副会長 小林 朋子

事務局の移転が決まり、様々な契約や事務作業が続いています。多くの方々のご協力のおかげで、なんとかスムーズに進んでいます。データ管理システムも徐々に形になってきて、OA 機器が事務局に納品されるに従って、期待と不安が混じった気分になります。

10月23日・24日開催の補助動力付PG日本選手権の閉会式に出席しました。アットホームな楽しい雰囲気での閉会式でした。

楽しい気分で翌日事務局に出たところ、待っていたのは残念なPGの事故の知らせでした。レッグベルトの締め忘れによる事故です。昨年も同様の事故が起きており、なんとかレッグベルトの締め忘れを防ぐための活動を開始しようと思っています。

常任理事 朝日 和博

今年度も残すところ僅かになりました。

今、JHFは大きく変わろうとしています。何と言ってもフライヤー会員登録制度がスタートします。現在JHFはこれに全力を注いでおり、必ずや成功すると思えます。

次にJHFが目指すべき事は何かというと、「特別な人がやる特殊なスポーツ」から「普通の人々がやる楽しいスカイスポーツ」へと、自他ともに認識される事ではないでしょうか。誰でも、いつでも入門できるスポーツに育っていく事ではないでしょうか。JHFが広く人々に開放されると言うことは、そのような事ではないかと思えます。

現在は2000年の予算編成にがんばっています。皆さん応援してください。

常任理事 関谷 暢人

10月9日～11日に長野県大鹿村で開催された「大鹿エリアフェスタ」に参加した。とにかくエリアのスケールの大きさに驚い

た。1,000mの高度差は全国でも数少なく、サーマルが豊富で、少しのゲインで南アルプスから中央そして北アルプスまで見渡せる。テイクオフから望めた雲海を突き抜ける乗鞍岳・甲斐駒ヶ岳は、一生忘れることのない風景となった。更に驚いたのは泊まった民宿の「晩御飯」。その品数の多さは、特筆もの。地名に由来する鹿肉をお腹一杯になるまで食べられ、料金は通常の民宿と変わらない(むしろ安い)。ぜひ、皆さんにも一度は訪れることをお勧めします。当然、エリア管理「東海・飯田パラグライダークラブ」への問い合わせをお忘れなく。

常任理事 横尾 和彦

PG日本選手権、補助動力付PG日本選手権、そしてJHFの普及事業として初めて開催されたPGセーフティセミナーの関係者の皆様、ご苦労様でした。どれも厳しい予算枠の中、関係者の熱意に支えられて実施されています。必ずフライヤーに還元できる何かだと信じています。来年以降はより適正な事業計画に基づく予算にしたいです。

私もJHFに勤めて早3年。「JHFは……」というご意見をたくさん伺ってきました。いつもその理由を考え仕事をしており、少しずつよくなっていると信じます。

理事 岩間 雅彦

最近ハングの世界ではクラス2と呼ばれる固定翼機のブームが起き始めているようです。フレキシブル翼機と同じ操縦方法の固定翼機が数年前に登場したのがきっかけですが、今年は複数のメーカーから同系列の機体が発表されました。これらは昨今のキングポストレス機と同レベルの30kg台前半まで軽くなっており、滑空比15:1をうたっています。実際、ソアラに近いイメージで、飛びを見ているとエリアが狭くなったかのようです。そんなわけで、長くフレキシブル翼で飛んでいた私は、ちょっとしたカルチャーショックを感じています。フレキシブル翼とか固定翼という分類は、競技や記録では重要かもしれないが自由に飛びたいというフライヤーの欲求の前では大した意味を持ちません。従来機と同じ操作感覚で滑空比の飛躍的向上を実現した点で、これらの機体はハングが将来進む方向を示唆しているように感じてなりません。

理事 田中 美由喜

10月19日より3日間、京都府舞鶴でインストラクターに対するセーフティセミナーを開催した。

全国のスクールより参加があり、3日間とも充実したセミナーを行うことができた。教員検定は毎年開催しているが、インストラクター対象のセミナーはJHFとしては初めて。今回開催したことは、スカイスポーツの安全に寄与できることと思う。パラ・ハンググライディングが安全で楽しい

スポーツであるためには、現在教員として活躍している方たちに、研修の場を提供し、日進月歩している道具についての正しい知識と認証を新たにしてもらい、それをスクール生、クラブ員、ビジターに伝えてもらうことが重要なことだと思う。

すそ野に対して、地道に活動を行なう必要があると思う。

理事 星野 納

補助動力付PG日本選手権は無事終了。補助動力委員会は、マイクロライト連盟フットランド部会との関係改善と「歩み寄り」に取り組んでいます。まずはJHF・FLMが開催する両選手権の相互後援が、どうにかまとまり、このレポートができる頃にはさらに進んだ合意が成立していると思います。これまで、JAA・JHF・JML三者の協定は平成9年9月の通称「但馬合意」だけ。この覚書はシンプルな文面が災いして、三者が自分に都合の良い勝手な解釈を下して、確実な効力を発揮できない状態にあります。そもそも三者合意という決め方に無理があり、本来はフライヤーを含めた四者合意でなければならぬはず。なぜMPG日本選手権や技能証が二つあるのか、なぜフライヤー登録を二つもするのかといったフライヤーの疑問に答え、「フットランド部会ができたからJHFは補助動力委員会を設置し慌てて活動を始めた」という重大な誤解をとかなければなりません。

理事 松田 保子

PGハーネスのベルト締め忘れて、ハング・パラのベテランが亡くなりました。人間は過去に学ぶことができるはず。これまでの事故をあらためて考え再発を防ぐため、フライヤーに正確な情報をもっと提供しなければと思っています。

今年もあとわずか。来年からJHFレポートは隔月刊になります。ページ数をふやし、内容も充実させたい。それには編集スタッフも予算も必要。はてさてどうしたものかと、いろいろ思案中です。

理事 松永 文也

先日行った県連盟向けの調査の回収結果を見ました。関東圏の回収率が比較的低かった事が残念でしたが、半数を超える県連が丁寧にその現状、意見、考えるところを述べてくれました。今後の事業に生かせる貴重な資料が得られたと喜んでいます。政策に対する無関心は、意見が聞き入れられない無力感から来るものです。そういう意味では今回いただいた一つ一つの意見は、調査を実施した各ワークグループのみならず広い意味でのJHF全体に対する県連盟からの期待のあらわれだと解釈しています。その期待を無にしないために、時節に合った適切な事業を執行できるよう作業に取り組みたいと思います。

## 大会報告

### パラグライダー

#### 全日本学生パラグライダー選手権

1999年8月22日～24日

長野県バトピア五竜

1位	三宅 立晃	北海道大学	1000点
2位	長井 昭史	信州大学	926点
3位	(同順位7名)		499点

3日間のうち成立したのは1日のみ。しかし、ミニマムを達成した選手が多く、充実した大会となった。

#### '99 高山ホルンバレーカップ

1999年8月28日・29日

長野県高山村山田温泉スキー場

総合

1位	扇沢 郁	富山県	1000点
2位	川地 正孝	神奈川県	925点
3位	広谷 泰一	青森県	884点
4位	池田 幸二	千葉県	877点
5位	長島 信一	埼玉県	868点
6位	伊沢 光	東京都	864点

女子

1位	田中美由喜	東京都	793点
2位	神山 和子	東京都	440点
3位	水沼 典子	栃木県	440点

28日は不成立。翌29日は朝から快晴。83名の期待が高まる中、50kmのタスクを設定。雲低が低く、北風が強くなったことで難しいタスクとなった。しかし、扇沢選手、川地選手が先行し結局17名がゴールを果たした。

#### '99 Coo フルーツカップ

1999年10月9日～11日

茨城県エアパーク Coo

1位	伊澤 光	東京都	2772点
2位	辻 強	石川県	2735点
2位	加賀山 務	東京都	2735点
4位	JimmyParcher	イタリア	2608点
5位	西ヶ谷一志	埼玉県	2542点
6位	扇沢 郁	富山県	2522点

3日間とも秋晴れの好天に恵まれ、海外からの参加選手3名を含む100名の選手で競技が行われた。サーマルが単発的であったり、午後から風が強くなったりと難しい

コンディションの中、3本とも高得点を上げた強者たちが、海外からの招待選手を押しさえ上位を占めた。

#### 第6回大鹿エリアパラグライダーフェスタ

1999年10月9日・10日

長野県下伊那郡大鹿村

1位	真鍋 務	兵庫県	1000点
2位	柳和 秀	岐阜県	923点
3位	岡 孝充		847点
4位	大江麻里子		839点
5位	田口 正彰		836点
6位	油原 克彰		832点
7位	小林 雅彦		562点
8位	岡本 菊夫		562点

初日は条件にややむらがあり、テイクオフレベルで粘らねばならない選手が少なくなかった。10.1kmのタスクで6名がゴール。2日目は、高層雲が張り出してきたため、選手は発進せずウエイティング。ゲートクローズする頃にやっと高層雲がとれ、本来のサーマルブローが入り始めたが、多くの選手がミニマム距離を越えられず不成立。初日1本の成績で順位が決まった。



2日目は12.8km タスクで3名ゴールしたが...

### ハンググライダー

#### '99 NASA STUDENT CUP

1999年8月25日・26日

茨城県足尾エリア

総合

1位	野呂 文人	千葉県	664点
2位	井上 元気	千葉県	550点
3位	寺本 隆志	京都府	516点
4位	永原 弘美	茨城県	464点
5位	岡野 善紀	神奈川県	446点
6位	深井 宏宣	埼玉県	418点

女子

1位	永原 弘美	茨城県	464点
2位	佐々木優子	神奈川県	381点
3位	磯部さやか	茨城県	300点

雨の予報で大会の進行が危ぶまれたが、天候は回復し渋いながらも成立した。初日、条件が渋い中粘り続け、一瞬のタイミングを生かした永原選手が一人最長距離をマークした。2日目、朝は良かったが選手がテイクオフに上がると雲が広がり狭くなる。そんな中、永原選手、佐々木選手がゴールを決めた。しかし、午後になってから発達した雲を使い、短時間でゴールした野呂選手が逆転優勝した。

#### '99 デサントバードマンカップ獅子吼大会

1999年10月8日～11日

石川県鶴来町獅子吼高原

総合

1位	波多野康夫	兵庫県	1275.5点
2位	大沼 浩	茨城県	1204.2点
3位	谷本 昌彦	大阪府	1141.4点
4位	平林 和行	茨城県	1087.9点
5位	古坂 学俊	茨城県	1036.8点
6位	太田 章吾	千葉県	990.6点

女子

1位	岡田 明子	静岡県	660.4点
2位	藤田 恵里	東京都	621.0点
3位	安楽恵里子	群馬県	510.4点

大会期間を通して晴天には恵まれたが、2日目は強風のフォロー、3、4日目は強い逆転層でサーマルが弱く、RVFが小さくなってしまった。そんな悪条件の中、初日トップに立った大沼選手を最終日に波多野選手が逆転して2連覇を成し遂げた。なお、18回続いてきたデサントカップに、来年の19回大会で終止符が打たれる。最後の大会となる来年は多数の選手の参加を期待したい。

「七が宿カップパラグライダー大会」「'99SPSパラグライダー大会 in OSA」「ハンググライダー奥羽ラリー選手権'99」は悪天候のため不成立となりました。

## 大会開催予定(1999年10月25日現在)

JL: ジャパンリーグ対象 PS: ポイントシステム対象 (ジャパンリーグ対象、ポイントシステム対象、公認については申請を含む。) 参加資格 XC: クロスカントリー証 P: パイロット証 NP: ノービスパイロット証 B: B級練習生参加可

区分	大会名	日程	開催地	参加資格	参加費	締切
公認	丹那PGフライイン1999	12/11・12	丹那エリア	P	15,000円	12/1
SPS	〒419-0104 静岡県田方郡函南町374-63 イクス内 丹那パラグライダークラブ TEL.0559-74-3439					

JHF 技能証発行数 (1999年10月31日現在)					
ハンググライダー	P証	4,818	パラグライダー	P証	18,040
	C証	6,759		NP証	8,500
	B証	11,313		補助動力NP証	64
	A証	10,723		B証	39,376
	補助動力証	124		補助動力B証	121
	XC証	1,084		A証	42,655
	TD証	22		補助動力A証	150
				補助動力証	886
				XC証	3,413
				TD証	137

JHF ホームページもご覧ください。 <http://jhf.skysports.or.jp/>

## JHF レポート 12月号 (No.155)

発行日 1999年11月20日 定価 10円  
 発行 (社)日本ハンググライディング連盟  
 〒105-0004 東京都港区新橋2-5-6 大村ビル4F  
 TEL.03-3592-2651 FAX.03-3597-0245

編集 JHF 企画部広報出版局

印刷 日本印刷(株)

この印刷物は再生紙を使用しています。